

議題① 事前採点 集計表													◎	○	●	▲
①	○		○				○	○	○	●	●	●	0	5	3	0
②	●		●				○	●	●	●	●	●	0	1	7	0
③	○		●				○	○	●	●	●	●	0	3	5	0
④	◎		◎				◎	◎	◎	◎	●	◎	7	0	1	0
⑤	○		●				○	◎	●	◎	●	●	2	2	4	0

基本目標①		基本目標②		基本目標③	
評価できる点	今後の課題点	評価できる点	今後の課題点	評価できる点	今後の課題点
恵まれた環境を守る意識が高い	学校発の推進以外にも、地域コミュニティの学習会			個人から地域に広がりが見える	
私事ですが、先日、芦屋浜手側の街並みを見る機会がありました。整備されて水辺を生かした造りの公園は、清潔で、夏場ならもっとたくさんの人が遊んでいたであろうと思います。とても管理が行き届いている印象を受けました。					
アウトカム評価として、自然環境保全は問題ない	より多くの市民に自然環境への興味を持ってもらいたい	アウトカム評価として、生活環境保全は問題ない	新たな取り組みがあればなおよい	アウトカム評価として、景観の保全・創造は問題ない	新たな取り組みがあればなおよい
悪化しないように継続されている	新たな取り組みが乏しい	従来の取り組みの継続	特になし	悪化しないように継続されている	市民の緑化活動が高齢化により低下する恐れあり
コロナで中断していた観察会等が再開できた点		基本的な項目の定期的な観測が継続されている点		定期的な取り組みが継続されている点	
自然と触れ合うイベントや接点が増えていること	イベントや接点の広報と参加人数の増加	取り組みが維持・継続できていること	令和5年の予定が引き続き取り組みとなっているので施策を進めるにあたっての具体的な取り組み(Action)が必要	緑化に対し公共・民有地・家庭ともに助成を実施し意識が向上している	より広い対象へのまちなみを保つためのマナーの普及と啓発活動
	冊子の配布は、配布しただけで終わっている気がする。例えば、「芦屋で会える鳥」という冊子は、自身の子どもが通うことも園では玄関のところに置かれているだけ。環境関係に関わらないが、配布しただけではなかなか見てもらえない。配布して、見てもらうためにはどうすればいいか？を考える必要があるのではないかな。 啓発についても、ホームページに掲載していますというのは啓発としては弱い。市民が自発的に情報を取りに行かなければ伝わらないものは、広がらない。自発的に情報を取りに来てくれる人は、恐らくベースとして十分な啓発ができています。 芦屋川の除草は、刈ってもすぐに伸びてしまうから仕方ない部分があるが、1年のほとんどの時期が「川というよりも草むら」という印象。可能ならば、もっと頻度を上げてほしい。				犬の糞について、イエローチョーク作戦はあまり効果がないように思う。そういうのを気にする飼い主の人は、そもそも糞を放置しない。市民マナー条例の違反をさせない環境づくりは、条例についての啓発を行うことも重要だが、そもそもきれいな状態を維持することも重要ではないか。ごみ拾いアプリやスポーツごみ拾いの導入などで、市民にごみ拾いの文化を定着させることで、更にきれいな状態を生み出せるのではないかな。 また、市内のポイ捨ての状況を見える化し、重点的に見るところを設けたら良いのではないかな。

基本目標④		基本目標⑤	
評価できる点	今後の課題点	評価できる点	今後の課題点
高く評価します		生活に密着した問題で関心、意識は高い	
補助事業やLED交換化の実績をみると、相当量の製品の入れ替えに成功したと見受けられます。			
新たな取り組みも行われおり、努力・創意工夫がみられる		新たな取り組みも行われおり、努力・創意工夫がみられる	循環型社会の構築に向けて、より多くの市民の取り組みが求められる
省エネ化が進んでいるように感じる	既存の設備、建物のLEDを増やす	啓蒙活動に積極的に取り組んでいる	結果に対する分析
・脱炭素ロードマップが策定できている点 ・既存の省エネ対策補助が実施されている点		コロナで中断していた取り組みが再開できた点	
公共施設のLED化や省エネ設備の設置 公的機関でも節電・省エネの取り組みの浸透	家庭や個人への取り組みの更なる強化	ごみの適性処理やリサイクルに関する積極的な広報	リユースやフードドライブが浸透する一方で不要なものを購入しない、適量や適切な購入への啓発身近にできるくらしの循環についての学習の機会を増やす
			雑がみのごみが多い。分別を促すため、紙資源用の収集袋をつくって配布するなどの啓発をしたほうが良いのではないかな。